

1. 計画の概要

1 計画の目的

- ・ 姫路市においては、安定給水の確保と持続可能な水道事業を目指すため、効率的かつ効果的に施設更新と耐震化整備を進めているところである。
- ・ 本計画は、水道事業を取巻く更なる環境の変化に対応するため、事業の進捗状況の把握、評価を行うとともに、計画期間である令和51年度までの事業及び財政収支を明らかにし、「姫路市水道施設更新及び耐震化基本計画」の改訂を行うものである。

2 計画期間

- ・ 令和6年度（2024年度）から令和51年度※（2069年度） ※水道ビジョン長期目標年度

3 主な改定内容

- ・ 水需要予測の見直し
- ・ 施設整備計画の見直し
- ・ 管路更新計画の見直し
- ・ 投資計画の見直し（物価高騰の反映など）
- ・ アセットマネジメントのレベルアップ

2. 姫路市水道事業の概要

姫路市の水道事業は、市民生活に必要不可欠な「水」を提供するライフラインとして、昭和4年の給水開始以来、90年以上が経過し、これまでに6期に及ぶ拡張事業を実施し、増大する水需要に対応してきました。また、平成18年3月の周辺4町との合併により、山間部から島しょ部まで広大な給水区域を擁する水道事業となっています。

【水道事業の沿革】

年月	沿革	計画給水人口(人)	計画1日最大給水量(㎡/日)
T15.5	創設（S4.2給水開始）	70,000	11,690
S32.1	第1期拡張事業	190,000	47,650
S35.11	第2期拡張事業	205,603	55,153
S37.3	第3期拡張事業	271,724	77,800
S39.12	第4期拡張事業	400,000	160,000
S48.3	第5期拡張事業	515,000	320,000
H3.10	第5期拡張事業一部変更	515,000	320,000
H18.3	第5期拡張事業統合	542,165	235,000
H21.4	第6期拡張事業	534,310	217,000
H26.3	第6期拡張事業一部変更	534,000	203,000

【姫路市の水道施設】

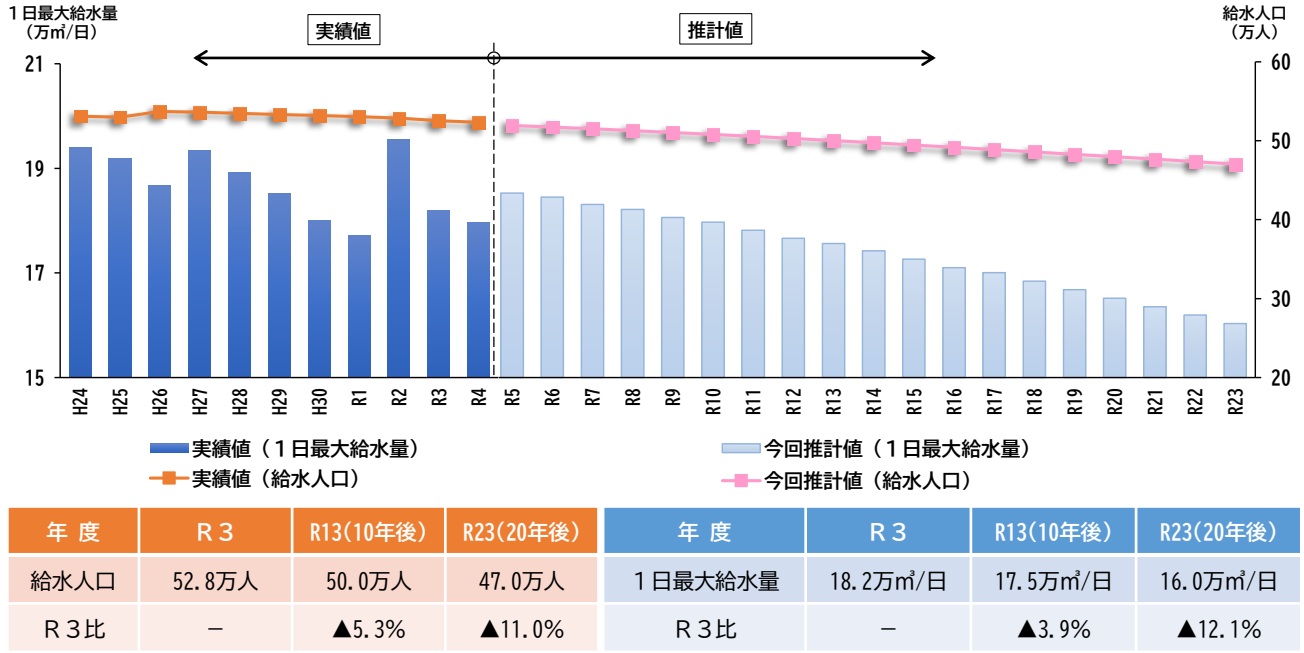


【水道施設の概要】

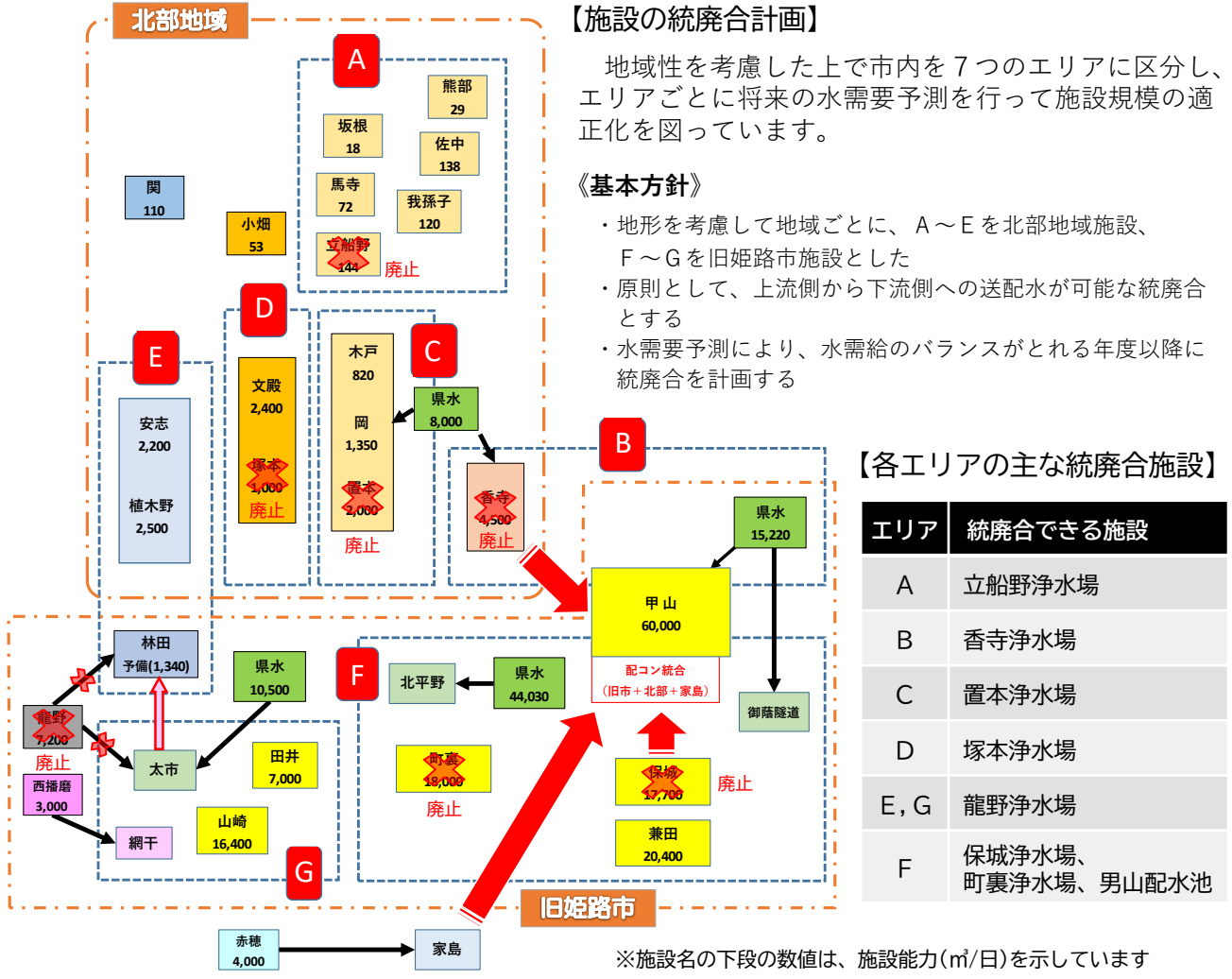
令和5年度末現在

取水施設	●自己水源(河川、地下水) 31箇所 約164,000㎡/日 ●県水 約77,000㎡/日 ●赤穂市・西播磨水道企業団から 9,000㎡/日 ●合計 約250,000㎡/日
浄水場	●23箇所 約164,000㎡/日
配水池	●78箇所(耐震性貯水槽9箇所含む) 約144,000㎡
管路	●全延長 約3,002km(うち基幹管路延長 約346km)
耐震化	●浄水施設耐震化率 : 11.6% ●配水池耐震化率 : 53.4% ●基幹管路の耐震適合率 : 33.5%

3. 水需要予測の見直し



4. 水道施設統廃合計画



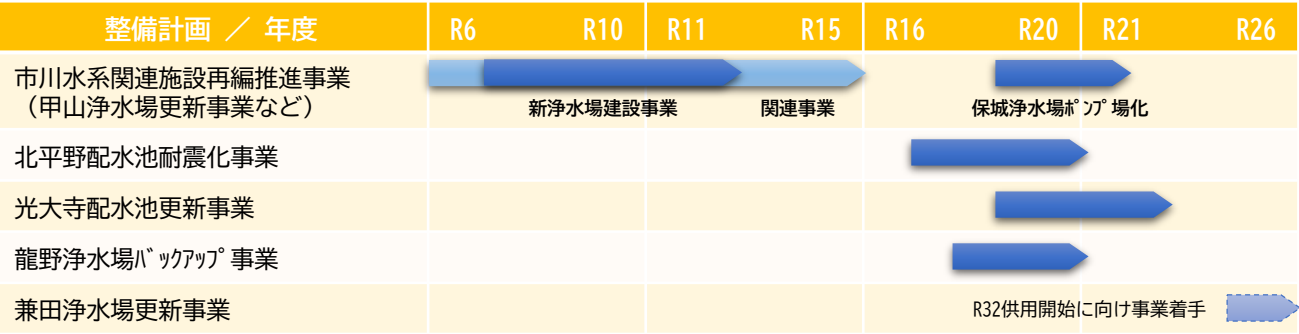
5. 施設整備計画の見直し

1 計画の概要

検討項目等	今回計画	前回計画
基幹浄水場（市川水系関連施設）再編計画の考慮	新甲山浄水場建設(R12)、保城浄水場廃止(R22) 町裏浄水場・男山配水池の廃止(R30)	再編計画未策定
浄水施設の耐震化	水道ビジョン後期目標値：54.8%は、R22に達成見込み	水道ビジョンのとおり
配水池の耐震化	水道ビジョン後期目標値：58.1%は、R20に達成見込み	水道ビジョンのとおり
更新優先順位	市の最優先事業※以外の基幹施設に関しては、施設規模や施設重要度により設定	重要度考慮外

※令和26年度までに優先的に実施を予定している事業

2 整備スケジュール（主要施設）



6. 管路更新計画の見直し

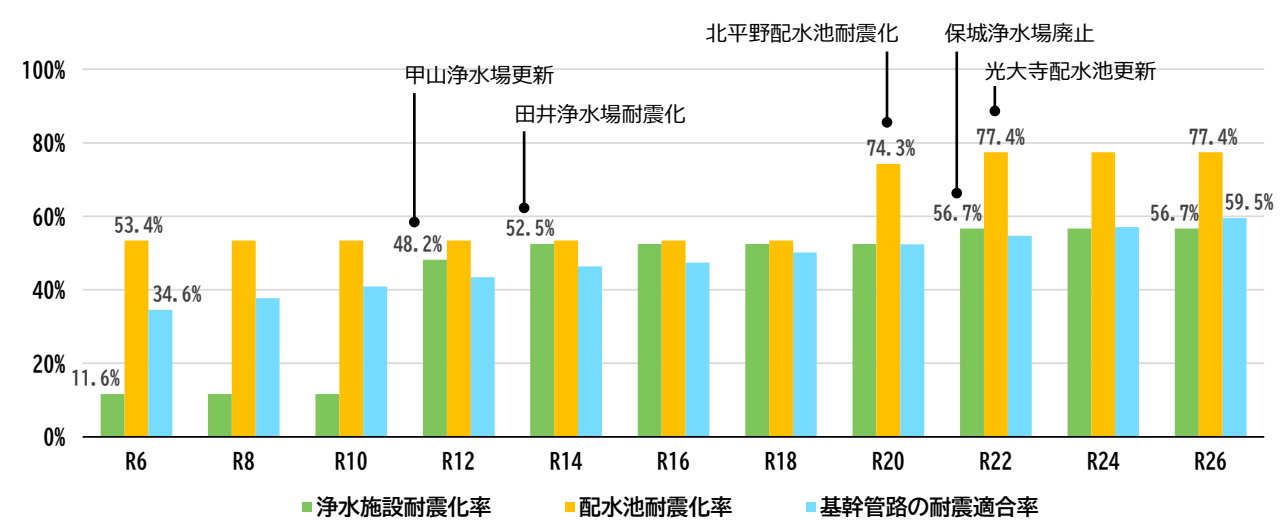
1 計画の概要

検討項目等	今回計画	前回計画
管路更新率	令和16年度に 0.83%、令和26年度に 1.0% ※財源やAI診断の考慮による	令和16年度に1.0%
小口径管路の管種	口径150mm以下の管種を GX管 → EF管へ見直し	未検討
基幹管路の耐震適合率	水道ビジョン後期目標値：42.5%は、R11に達成見込み	今回計画に同じ
更新優先順位	重要給水施設への管路やAI診断による更新優先順位を新たに反映	AI診断考慮外
重要給水施設につながる配水支管の耐震化	令和11年度までに54箇所、令和16年度までに全82箇所の重要給水施設への配水支管を耐震化	今回計画に同じ

2 整備スケジュール（主要幹線）



7. 主な耐震指標の推移見込み

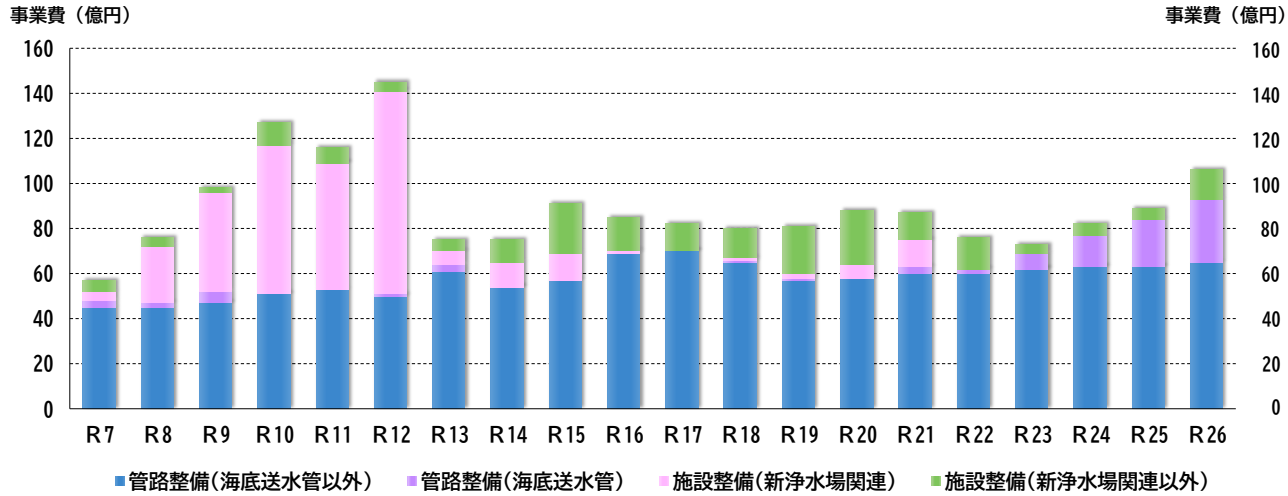


8. 投資計画の見直し

【計画の見直し方針】

コロナ禍や物価の上昇など、昨今の事業環境の変化に対応するため下記の内容を反映。

- ① 事業費へ物価上昇の影響を反映
- ② 交付金の積極的活用
- ③ 事業費の平準化及び優先順位の見直しと事業費削減の取組み



9. アセットマネジメントのレベルアップ

これまでの標準型検討手法のタイプ3 Cから、詳細型検討手法のタイプ4 Dへレベルアップ。

		財 政 収 支			
		タイプA	タイプB	タイプC	タイプD
更新需要	タイプ1	タイプ1 A	タイプ1 B	タイプ1 C	
	タイプ2	タイプ2 A	タイプ2 B	タイプ2 C	
	タイプ3	タイプ3 A	タイプ3 B	タイプ3 C	
	タイプ4				タイプ4 D

レベルアップの要素

【更新需要】

- ・再構築や統廃合を考慮
- ・ライフサイクルコストを考慮

【財政収支】

- ・物価上昇の考慮
- ・資金確保の考慮